

2025年度 各授業学習目標・授業目標 科目名：2年探究 AI活用

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で用いられているAI等のテクノロジーが持つ機能や役割、実例などの基礎的な情報を自分の言葉で説明することができる ・簡単なプログラムを使って実際にAIを動かすことができる <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的課題について調べ、AI等のテクノロジー活用した解決方法を提案することができる ・AIが人々、社会にとって正しく活用されるための倫理的判断をすることができる ・テクノロジーが人間個人、社会に与える影響を考察することが出来る ・上記事項について、他者に適切に提示/説明することができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIや新たな技術開発、イノベーションについてより深く知ろうとし、それを用いて解決しようとする姿勢を持つことが出来る ・社会的課題に向き合う中で、AIなどに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、人間の本来の生き方について追求することができる 	
下位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① AIの基本機能についての概要を説明できる。 ② AI「活用」の意義を説明できる。 ③ 3年生でAIを動かすプログラムを組むための感覚を、スクラッチを用いて得る。 ④ 社会課題に関わる客観的なデータを基にAIを活用した具体的な提案をすることができる。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① AIを活用した社会課題の解決案について、議論などを通じて他者と協働して創造することができる。 ② AIを活用した社会課題の解決案について、倫理的な判断を加味することができる。 ③ 他のグループや個人の意見に対して、批判的な目を持ち、正しく議論できる。 <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① AIや新たな技術開発、イノベーションについて、自発的に調べ知識を追い求めることができる。 ② 社会課題に向き合う中で、AIなどに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、自分の生き方について追求することができる。 	

< 1 学期 >

授業日	4/15(火)	1 学期授業回数	1 回目 / 全 9 回																
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・「学びの記録」の書き方を知る ・AI が広く社会でどのように話題になっているかを知る ・散らばった情報を協働して分類することが出来る																		
時間 授業内容	5 限 6 限	5 時間目：西室先生による探究の説明 6 時間目：個人活動とグループワーク。 1) グループワーク A) まずは個人で新聞記事を読む、適宜線を引く B) 4 人 1 組で新聞記事をロイロを使って分類する C) グループの代表者がロイロ提出箱に提出(本日授業内で) ・メンバー全員のクラス、番号、名前を記載 ・どのような基準で分類したか、も記載 D) 送る機能で分類カードを共有 2) 個人ワーク A) 日経新聞の web へ行き、AI 関連の記事を 10 個見つけて WEB カードにする B) グループで分類したところに自分の web カード进行分类する C) 自分は興味を持った分類に丸をつけて、提出箱に提出(4/22 授業開始まで) D) 「学びの記録」を記入する(4/22 の授業開始時に提出) ・「知識/事実」は新聞記事を通して知ったことを書く = K(now) ・「考察」は、今回知った K と、既に知っていたや体験したことがあることを考察し、 これからどのようなことを知りたいか、知らないとい、けないかを書く = W(ant to know)																	
評価方法	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">観点1 知識</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>論点をしっかりと整理して記述できている</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>論点をある程度整理して記述している</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>論点があまり整理して記述されていない</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観点2 考察</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>表層的な感想や意見にとどまっている</td> </tr> </table>			観点1 知識		A	論点をしっかりと整理して記述できている	B	論点をある程度整理して記述している	C	論点があまり整理して記述されていない	観点2 考察		A	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる	B	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる	C	表層的な感想や意見にとどまっている
観点1 知識																			
A	論点をしっかりと整理して記述できている																		
B	論点をある程度整理して記述している																		
C	論点があまり整理して記述されていない																		
観点2 考察																			
A	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる																		
B	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる																		
C	表層的な感想や意見にとどまっている																		
宿題指示	学びの記録、個人とグループのロイロカード (4月22日提出)																		

授業日	4/22(火)	1 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・「AI 活用人材」についての概観をつかむことができる ・Chat GPT がどのようなものでどう活用できるか考えることが出来る		
時間 授業内容	5・6 限	学びの記録回収 関西学院大学工学部 巳波 弘佳教授による講義とワークショップ	

	<p>「急激な進化にあなたはどのように向き合うか」AI×○○という視点、AIを教育活動にどう取り入れられるか。3人一組のグループワーク</p> <p>【生徒たちの回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科×AI、美術×AI、自主学習×AI、教員の教材研究×AI、体育×AI <p>AIで楽をするのは×自分自身の成長がない⇒AIをうまく使いこなす、活用する。</p> <p>必要とされるのはAI活用人材。</p> <p>佐藤先生からのまとめ</p> <p>この2週間で日常生活において以前よりも「AI」を認識できたはず。色んなところに目を向けて、日常生活のどんなところでAIが使われているか探しておく。</p>
--	---

評価方法	観点1 知識
	A 論点をしっかりと整理して記述できている
	B 論点をある程度整理して記述している
	C 論点があまり整理して記述されていない
	観点2 考察
	A 得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる
	B 得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる
	C 表層的な感想や意見にとどまっている
	観点3 調べたこと
	A 知りたいと思ったことを自発的にいくつか調べた
B 知りたいと思ったことを自発的に少し調べた	
C 調べていない	

宿題指示	学びの記録（次回授業で回収）
------	----------------

授業日	4/30(木)	1 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・ AIの機能について知る ・ AIをビジネスに活用している企業について知る		
時間 授業内容	5 限	<p>前回の新聞の分類分けを3人1チームで話す</p> <p>思い：「世の中でAIについてどんなことが話題になっているのだろうか？知りたい！」</p> <p>1つの方法：「新聞には当時話題のこと、日経デジタルには最新話題が書いているから、それらから共通項を抜き出して分類してみよう！共通項が分かればキーワードが得られる！」</p> <p>【今回取った手法について】</p> <p>1) 帰納法(的手法)</p> <p>= 同じような事象を複数見つけ、その共通点から結論を導く手法</p> <p>長所：新たな広い知識を拡張できる</p> <p>短所：論理的に必ず正しい結論が導き出せない場合がある</p> <p>(エラー値、例外、当てはまらないものがある)</p> <p>学びの記録のフィードバック</p> <p>⇒プリントをただ埋めればいいわけではない。調べたらすぐに出てくる問いはふさわしくない。</p> <p>実際にAIが使われているサイトに触れてみる →機能紹介</p> <p>自然言語処理 → 横浜市のごみに関するチャットボット</p> <p>画像認識 → Google cloud vision AI</p>	

	動画解析 → Microsoft Azure AI Video Indexer 音声認識 → Google Speech to text AI AI 活用入門講座の動画「AI ビジネスに活用している企業」を視聴する																
評価方法	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">観点1 知識</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>内容をしっかりと整理して記述できている</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>内容をある程度整理して記述している</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>内容があまり整理して記述されていない</td> </tr> <tr> <th colspan="2">観点2 実体験</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>得た知識と実体験との有機的なつながりが多く見られる</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>得た知識と実体験との有機的なつながりが多少見られる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>表層的な感想や意見にとどまっている</td> </tr> </table>	観点1 知識		A	内容をしっかりと整理して記述できている	B	内容をある程度整理して記述している	C	内容があまり整理して記述されていない	観点2 実体験		A	得た知識と実体験との有機的なつながりが多く見られる	B	得た知識と実体験との有機的なつながりが多少見られる	C	表層的な感想や意見にとどまっている
観点1 知識																	
A	内容をしっかりと整理して記述できている																
B	内容をある程度整理して記述している																
C	内容があまり整理して記述されていない																
観点2 実体験																	
A	得た知識と実体験との有機的なつながりが多く見られる																
B	得た知識と実体験との有機的なつながりが多少見られる																
C	表層的な感想や意見にとどまっている																
宿題指示	学びの記録 2 枚																

授業日	5/13(火)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ AI をビジネスに活用している企業について協働して調べることが出来る		
時間 授業内容	AI 活用入門講座の動画「AI ビジネスに活用している企業」について的小テスト 1) 発表日: 5/27(火) 授業開始後 20 分間は準備時間とする 2) 発表時間: 5 分 3) 質問時間: 2 分 4) 発表形式: 4 つのスライド 概要/課題/ソリューション/効果 5) ルール: 「概要スライド」「課題」「ソリューション」「効果」の 4 項目のうち、1 人 1 項目以上を話すこと。 6) 評価方法 : 相互評価の中からインパクト賞も選出		
評価方法			
宿題指示	発表準備		

授業日	5/27(火)	1 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	準備 発表 5 分× 8 班 相互評価 企業が導入している AI の概要が明確さ (課題ソリューション効果の流れが明確) インパクトある内容 おっと、すげー、へー感、スライドのデザインなどではなく中身の内容で評価。質問は用紙に書いて次回提出	

	<p>《発表の仕方》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1班 3分～5分程度 ・ PowerPoint スライド+デモンストレーション ⇒スライドの中身（最低限必要な情報） 概要・問題提起（アプリの目的）・実装手順・デモンストレーション <p>《評価軸》</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 目的の明確度・達成度 ② 新規性 ③ 拡張性・将来性 ④ 発表の姿勢
評価方法	途中経過のため、このワークショップの3回目で評価する
宿題指示	発表準備

授業日	6/17(火)	1 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の AI の体験を通して、課題を解決する案を協働で考えることができる ・ Scratch で画像認識の AI を作成することができる。 		
時間 授業内容	15 80	発表準備 已波先生（Zoom）+ゼミ生4人に対して、8グループによる発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表5分間+質疑応答2分間 ・ 「画像認識 AI を用いたプロダクトのアイデア」 ・ 已波先生+ゼミ生による総括 	
評価方法	相互評価表		
宿題指示	次週来てくださる講師北森さんの企業調べ+Genspark、NotebookLLM のアプリにサインしておく、評価表		

授業日	6/24(火)	1 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ AI の基本概念と身近な活用例を理解することができる。 ・ 実際に AI ツールを使って創造的な活動を体験し、課題を考えることができる。 ・ AI 時代の課題と未来について考えることができる。 		
時間 授業内容	90	株式会社 VOLT MIND 北森聖士氏による講義+ワークショップ 第1部（20分）《AIを知ろう》 自己紹介・身近にあふれる AI・レコメンドシステムについて・AIの歴史 第2部（10分）《AIの仕組み》 機械学習の基本・AI知能のスペクトラム・現在のAIの限界・ 第3部（45分）《AI体験ワークショップ》 ChatGPTでアイデア創出・GenSparkで資料作成 NotebookLLMで資料音声化・体験の振り返り	

	第4部（15分）《AIと社会・未来》 AIが帰る社会・AI時代の課題・必要なスキル・質疑応答
評価方法	企業調べシート・学びの記録
宿題指示	学びの記録1枚

<2学期>

授業日	9/9(火)	2学期授業回数	1回目 / 全9回										
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・夏休みの間に考えたAIを用いた製品について、プレゼンテーションを行うことができる ・他のAIの製品について、アドバイスを加えることができる												
時間 授業内容	5・6時間 目 1) 以下の夏休みの宿題に基づいた、2分間発表 ・Classiのメッセージ機能で個人-教員で意見交換をし続ける ・最終目標は、次ページ以降のスライドを用いた2分間のプレゼン ・メッセージのやり取り回数や内容の深さを評価します ・最初のメッセージは 【そのAIの分類】 (教育・行政・企業・社会課題の解決など、あなたが想定するプレゼンの場所) 【そのAIは実際に何をするのか】 【それは拡張?代行?】 【なぜ、このAIが必要と思う?】 ・発表形式: 5つのスライド タイトル / 概要 / 課題 / ソリューション / 効果 2) 生徒達は相互評価を行う												
評価方法	<table border="1"> <tr> <td>観点1 そのアイデアに用いられるAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」が分類「A」は明瞭である 観点2 そのアイデアを実施することの「必要性」、世の中や人を動かす「波及性」、売れそうかどうかの「説明の明確性」</td> <td>観点3 訴求力</td> </tr> <tr> <td>A 50 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」だけでなく、用いられるAIの「仕組み」の説明の全ての項目の説明 A 50 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と印象に思わせるインパクトが大きい</td> <td>A 50 発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。</td> </tr> <tr> <td>B 30 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である</td> <td>B 30 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と印象に思わせるインパクト</td> </tr> <tr> <td>C 10 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である</td> <td>C 10 発表内容について、インパクトがあまりない</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 10 発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない</td> </tr> </table>			観点1 そのアイデアに用いられるAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」が分類「A」は明瞭である 観点2 そのアイデアを実施することの「必要性」、世の中や人を動かす「波及性」、売れそうかどうかの「説明の明確性」	観点3 訴求力	A 50 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」だけでなく、用いられるAIの「仕組み」の説明の全ての項目の説明 A 50 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と印象に思わせるインパクトが大きい	A 50 発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。	B 30 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である	B 30 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と印象に思わせるインパクト	C 10 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である	C 10 発表内容について、インパクトがあまりない		C 10 発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない
観点1 そのアイデアに用いられるAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」が分類「A」は明瞭である 観点2 そのアイデアを実施することの「必要性」、世の中や人を動かす「波及性」、売れそうかどうかの「説明の明確性」	観点3 訴求力												
A 50 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」だけでなく、用いられるAIの「仕組み」の説明の全ての項目の説明 A 50 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と印象に思わせるインパクトが大きい	A 50 発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。												
B 30 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である	B 30 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と印象に思わせるインパクト												
C 10 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である	C 10 発表内容について、インパクトがあまりない												
	C 10 発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない												
宿題指示	評価シートの完成												

授業日	9/16(火)	2学期授業回数	2回目 / 全9回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・自分の発表内容を客観的に振り返ることができる		
時間 授業内容	50分 1) 相互振り返り 5人×3グループ、4人×2グループ グループ変えて2回転 →学びの記録「1」の部分 ・4分間、友人から質疑を受け回答する。質疑応答自分が言われたことをメモする 15分 2) 教員から全体へのコメント 3) 夏休みの課題「社会課題編とAI活用編」の共有ノートを読む 全記事読み。自分のアイデアと関連のあるものや、自分の考えに足りなかったことがあれば		

		<p>自分のノートに転送。考えたこと、関連性に関するコメントを学びの記録2に書く。 改めて自分のアイディアの類似品がないか調べる。なければならないでいい。 → 学びの記録「2」の部分</p> <p>4) 自分が今後調べるべきことは何か (AIの機能、社会課題の周辺知識など)を整理する → 学びの記録「3」の部分</p>
評価方法	学びの記録	
宿題指示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学びの記録を完成させる ・ 今週の記事：AI編と社会課題編を1枚ずつロイロ提出箱に提出 	

授業日	9/25(木)	2学期授業回数	3回目 / 全9回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会課題を具体的に考えることが出来る ・ 社会課題に対してAIを活用した解決策を考えることが出来る 		
時間 授業内容	5・6 時間間目	学びの記録をお互いに読み合う 生徒代表によるグループ発表 課題の具体化 → ワークシート <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート配布 「課題の具体化：社会課題編」 「課題の具体化：AI活用編」 「課題の具体化：AIを考えるプロセス編」 ・ 「問い」の作り方の説明 → 問いとは → アイデアの探し方 ・ リファレンスリストの作り方、情報カードの作り方の説明 図書館での活動も可	
評価方法	特になし		
宿題指示	各グループにおいて、ワークシートやリサーチを開始		

授業日	9/30(火)	2学期授業回数	4回目 / 全9回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会課題を具体的に考えることが出来る ・ 社会課題に対してAIを活用した解決策を考えることが出来る 		
時間 授業内容	5時間目 6時間目	「アクセント」データサイエンスに関する事前学習動画視聴（20分）・学びの記録 授業演習でのグループワーク役割決め A・Bグループ【フード】【商品】【イベント】それぞれで ① 発表者②ファシリテーター③タイムキーパー④書記を決定する。 前回の続き作業⇒各グループ進捗状況を面談	
評価方法	学びの記録		
宿題指示	学びの記録／各グループにおいて、ワークシートやリサーチを開始		

授業日	10/7(火)	2 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ AI とデータサイエンスに関する知識やスキルを理解することができる ・ データ分析、問題解決のプロセスを理解することができる ・ 班員の意見に対してデータを用いてアドバイスを加えることが出来る		
時間 授業内容	5・6時間	アクセンチュア株式会社によるワークショップ 目 「データサイエンスでビジネスでビジネスを変革！」 テーマ：遊園地 2グループ、3つの本部（フード本部・商品本部・イベント本部）に分かれて 様々な課題を抱える遊園地復活に向けてデータ分析し、環境負荷の低減を意識しつつ売り上げアップを目的とした施策提案をする。データは実在する遊園地のデータを参考。 (1) 自己紹介 (2) 仮説立案（優先度付け）⇒個人作業・グループ内共有 (3) 仮説立案（検証方法）⇒個人作業・グループ内共有 (4) アクセンチュアにむけてグループごとに中間発表 仮説立案（検証方法）—発表3分 (5) 振り返り	
評価方法	全二回予定のため、次週評価		
宿題指示	各グループの発表メモをまとめておく		

授業日	10/23(木)	2 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ AI とデータサイエンスに関する知識やスキルを理解することができる ・ データ分析、問題解決のプロセスを理解することができる ・ 班員の意見に対してデータを用いてアドバイスを加えることが出来る		
時間 授業内容	5・6時間	アクセンチュア株式会社によるワークショップ② 目 「データサイエンスでビジネスでビジネスを変革！」 (1) 振り返り (2) データの読み取り練習（グループ活動） 前回決めた仮設方法によって実際にデータを読み取る (3) レクチャー（練習問題）⇒グループ内で議論 各グループ担当の講師のアドバイスを聞きながら進めていく (4) 作業時間 ⇒個人作業（7分）・グループ作業（28分） 同じパーク内であれば他本部が何をしようとしているか会話も OK (5) 施策選択⇒グループワーク（13分） 本部長へ施策実行の承認を得る説明の準備をする (6) 最終発表	

	15:10~25	フード本部・商品本部・イベント本部各4分ずつ 《ポイント》 ① 遊園地全体としてどのような戦略で売上向上を目指すのか ② その戦略の中で自分たちの本部や他の本部の役割は何か ③ 自分たちの本部が選択した施策とその施策を選定した理由 (7) まとめ・講義 (8) 交流会
評価方法	アクセントワークショップについてのポートフォリオ課題 (Classi)	
宿題指示	アンケートをしておく	

授業日	11/11(火)	2 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ 社会課題を具体的に考えることが出来る ・ 社会課題に対して AI を活用した解決策を考えることが出来る		
時間 授業内容	5・6 時間 目	・ IBM 訪問発表に向けてのグループ活動 ワークシートの作成、図書館でも活動可	
評価方法	特になし		
宿題指示	各グループにおいて、ワークシートやリサーチ、清書に備える		

授業日	11/18(火)	2 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ 社会課題を具体的に考えることが出来る ・ 社会課題に対して AI を活用した解決策を考えることが出来る		
時間 授業内容	5・6 時間 目	・ IBM 訪問発表に向けてのグループ活動、 ワークシートの作成、清書。図書館でも活動可	
評価方法	特になし		
宿題指示	各グループ相談する内容をきちんと共有しておく		

授業日	11/25(火)	2 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ 具体的に考えた社会課題をきちんと伝えることが出来る ・ IBM の歴史や AI を活用した実際の解決策やその過程を知る		
時間 授業内容	13:50	IBM ロビー集合、3 年生 AI 活用と合流 1. 開会式 2. 社内オフィスツアー 3. IBM の AI 活用講話	

	① IBMの歴史 ② IBMのAI活用の歴史 ③ IBMでのAI活用 ④ SDGsとテクノロジー ⑤ 量子コンピューター ⑥ これからの学び 4. 座談会 座談会形式で7班に分かれて自分たちの考えてきたAI活用の発表・アドバイスをもらう IBM社員1～2名各班20分ずつで回っていく。 5. クロージング 3年生と合流、挨拶
評価方法	案要項、Classi 振り返り
宿題指示	Classi 振り返り

<3学期>

授業日	1/13(火)	3学期授業回数	1回目 / 全6回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・社会課題に対するフィールドスタディーについて具体的に考えることができる ・社会課題に対してAIを活用した解決策を考えることができる		
時間 授業内容	5・6時間 目	・各班フィールドスタディー案の確定、面談、発表準備 →本日、来週から実施	
評価方法	最終授業で評価		
宿題指示	各班準備を進める		

授業日	1/20(火)	3学期授業回数	2回目 / 全6回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・社会課題に対するフィールドスタディーについて具体的に考え、実施することができる ・社会課題に対してAIを活用した解決策を考えることができる		
時間 授業内容	5・6時間 目	・各班フィールドスタディー実施、面談、発表準備 【フィールドスタディー】 <input type="checkbox"/> 教育・・・教室内でアンケート配信 <input type="checkbox"/> 熱中症・・・西宮北口から学校までの道のりで給水スポットがどれだけあるのか実際歩く <input type="checkbox"/> 災害・・・学校付近のハザードマップ周辺を実際に歩いてみる <input type="checkbox"/> 食品・・・八百屋に取材 <input type="checkbox"/> 介護・・・老人ホームに取材 <input type="checkbox"/> 職人系・・・当事者に近い人に取材	
評価方法	最終授業で評価		
宿題指示	各班準備を進める		

授業日	1/27(火)	3 学期授業回数	3 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・ 社会課題に対するフィールドスタディーについて具体的に考え、実施することができる ・ 社会課題に対して AI を活用した解決策を考えることができる		
時間 授業内容	5・6 時間 目	・ 次週の発表に向けて各班準備 ・ 1 チーム 老人ホームにフィールドスタディー	
評価方法	最終授業で評価		
宿題指示	各班準備を進める		

授業日	2/3(火)	3 学期授業回数	4 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・ 社会課題を具体的に考えることができる ・ 社会課題に対して AI を活用した解決策を考えることができる		
時間 授業内容	5・6 時間 目	発表 7 分 + 質疑応答 2 分 × 7 班 ① リサイくるん「観光客に向けた熱中症対策 AI」 ② よにん 「災害時に使用する AI ヒナン」 ③ NAKAZIMAGIC「教師育成 AI」 ④ アサイーボウル「老人マッチング AI」 ⑤ RYUCHAN は見てるよ「赤ちゃんを見守る AI」 ⑥ DAIGO も台所 「フードロス削減する AI」 ⑦ KInetiQ 「伝統工芸の後継者問題をサポートする AI 職人の手も借りたい」 発表の内容 < 3 0 秒 > つかみ < 1 分 3 0 秒 > 社会課題とターゲットの説明 < 4 分 > それに対して AI がどのように関わるのか < 1 分 > 社会(ターゲット) がどのように変わっていくのか 審査員：西室先生・武内先生・巳波先生 全体講評：巳波先生 ・ AI は神様ではない。自分たちで創っていく。 ・ 先行事例を調べ尽せていない。 ・ ゴールをどうするか決める	

評価方法	() 班：2年 () 組 () 番 名前 ()
	観点1 発表のつかみ:おっ!面白そう!
	A 5点 聴衆の関心や興味を強く引き付ける効果的な「つかみ」があった
	B 3点 聴衆の関心や興味をある程度引き付ける「つかみ」があった
	C 1点 聴衆の関心や興味を引き付ける「つかみ」があまり効果的ではなかった、もしくはなかった
観点2 社会課題の明確さ:何が問題なのか?それはどれぐらい問題なのか?	
A 5点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がしっかりと文献などのデータに基づいているため大変明確である	
B 3点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がある程度文献などのデータに基づいているためそれなりに分かる	
C 1点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」が文献などのデータに基づいていないため明確ではない	
観点3 AI活用の仕組み:AIがどのように社会課題解決に関わるか?	
A 5点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明が大変明確である	
B 3点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明がある程度明確である	
C 1点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明があまりなく不明確である	
観点4 AI活用の「効果」:このように社会が変わるのではないか?	
A 5点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明が体系的に説明されている	
B 3点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明がある程度論理的に説明されている	
C 1点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明があまり論理的ではない	
観点5 フィールドスタディでの学び:自分達が得た独自のデータはこれで、このデータからこんなことが言える!!	
A 5点 フィールドスタディで得たデータの説明が明確で、そのデータがアイデアにしっかりと活かされている	
B 3点 フィールドスタディで得たデータの説明がある程度明確で、そのデータがアイデアにある程度活かされている	
C 1点 フィールドスタディで得たデータの説明がない、もしくはそのデータがあまり活かされていない	
宿題指示	評価シートを完成させる

授業日	2/17(火)	3 学期授業回数	5 回目 / 全6回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・これまでの学びを語源化し、発表することができる ・異なる視点で研究する人たちの発表を聞き、自分たちの研究に新しい視点を得ることができる ・積極的に意見交換を行い、凝り固まったアイデアを払拭することができる		
時間 授業内容	13:55～ 14:35	2 年生必修選択 探究科目ピアティーチング AI 活用からは2 チーム	
評価方法	質問用紙		
宿題指示	ピアティーチング振り返り		

授業日	2/24(火)	3 学期授業回数	6 回目 / 全6回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・1 年間の学びを振り返り、自身の言葉で書くことができる		
時間 授業内容	5・6 時間目	1 年間の振り返り・自習 ① ピアティーチングを経験して ② 25 年度 AI 活用ポートフォリオ	
評価方法	学びの記録、Classi ポートフォリオ		
宿題指示			